

感想文

皆さんがそれぞれの想いを胸に被爆地広島を訪れました。
そして、たくさんのことを見て・聞いて・感じてきました。
ここには、広島平和の旅をとおして印象に残ったことを、
ありのままに書いてあります。

今回旅に参加したみなさんには、

広島はどう映り、何を感じたのでしょうか。



※原則として、感想文などは原文のまま掲載しています。

『あの火は核兵器が消えるその日まで燃える』

石井 美鈴

平和記念公園内の「平和の灯」は点火されて以来53年間燃え続けているそうです。原爆から72年経った今も、心身に負った傷に苦しんでいる方が沢山いるのです。思い出す度によみがえる辛さは私達には計り知れないものだと思います。

山根和子さんは2歳で被爆し「二度と同じ過ちを犯さないためにも話す事が大切」と原爆の事を伝えていくボランティアとして活動されています。元気に過ごしていた時、結婚相手のお義母様の心無い言葉に現実を突き付けられた和子さん。もし私なら、被爆者という理由で結婚に反対され悲しくて苦しくて立ち直れないなと思うと、居たたまれない気持ちになりました。しかしその後結婚することができ、お孫さんもいらっしゃるそうです。

和子さんの家の6軒先に12歳で亡くなり原爆の子の像のモデルとなった、同い年の佐々木禎子さんの家があったと言います。禎子さん一家は逃げる際北西に向かい、黒い雨を浴びました。その後、私と同じ歳で急性白血病になり、8ヶ月の闘病の末亡くなりました。いつも笑顔だったそうですが、悪化する病に苦しみ、とても辛かったと思います。心配かけまいと痛みに必死で耐える姿を想像すると、胸が苦しくなりました。広島平和資料館には禎子さんの写真と、

棺で眠る写真がおさめられていました。どちらもほほ笑んでいますが強い思いを感じました。禎子さんの事を知った和子さんは、改めて命の尊さを感じたそう
うで「人の命は紙一重で生死が分かれることもある。自分を身の周りの人を大切にしてほしい。」と私達に涙ぐみながら話して下さいました。

被爆で未来を失いこの世を去った人達のためにできる事は、明るい未来を作ることだと思えます。みんなで手を取り合って笑顔の輪を作り、平和の灯から火が消えて笑い合える日まで進むことが大切だと実感しました。

旅に参加する前の広島イメージ

- ・原爆ドーム
- ・平和記念式典公園
- ・広島集中豪雨、土砂災害
- ・人が多く、にぎやか
- ・原爆投下(8/6)
- ・大通りが多い・路面電車



旅に参加した後の広島イメージ

- ・平和のリーダー
- ・人を成長させる場所
- ・世界へ平和を発信する場所
- ・乗り越えてきた
- ・伝える
- ・笑顔
- ・また行きたいと思える場所

『平和を願う人々が集まる広島』

石井 眞弓

広島を訪問してとても印象的だったのは、昨年のオバマ大統領訪問、7月に核兵器禁止条約が採決されたこともあり、とても多くの外国人が訪れていたことです。原爆の恐ろしさ、広島に起きた壮絶な過去を知ろうと、平和を願う人々が世界中から集まっていることに胸が熱くなりました。そして、日本人である私達は、もっと深く知らなければならないと感じました。

一日目は原爆ドーム、爆心地等を訪れた後、広島平和記念資料館を見学しました。72年前の8月6日午前8時15分、この地に原爆が落とされたことを想像しました。全身黒焦げの人、皮膚が垂れ下がった人、街を埋め尽くす死体、直視出来ない光景がどこまでも続いていたと思うといたたまれなくなりました。そして現在も後遺症や精神的苦痛に耐えて生きている方がいらっしゃることを思い、決して忘れてはいけないと思いました。

被爆体験者である山根和子さんはこう仰っています。原爆で亡くなった人、辛うじて助かった人、逃げた方向により運命が分かれた。人の命は紙一重である。二度と戦争をしてはいけないという思いを持ち続けてほしい。平和の原点は自分であり、家族、友人。周りの人を大切にしてほしい。涙ぐみながら話される言葉はとても心に響きました。

翌8月6日は平和記念式典に参列しました。広島市長の平和宣言は、心のこ

もった力強い訴えでありとても感動しました。広島で原爆の惨状を学び、犠牲になられた方々を思い、娘と共に平和を願うことができたことは、とても貴重な経験となりました。実際に自分の目で見て感じる事が大切だと実感しています。

娘は旅を終えた後、改めて原爆について調べています。家族で話題にのぼることも増えるでしょう。この旅で感じたこと、学んだことを、折に触れて身近な人にも伝えていきたいと思います。

旅に参加する前の広島のイメージ

- 原爆の恐ろしさを伝える原爆ドーム
- 非核と平和と願い、訴える街
- テレビを通して毎年見る平和記念式典
- 宮島、尾道



旅に参加した後の広島のイメージ

- 世界中から平和を願う人々が集う街
- 核兵器の廃絶と世界平和の実現を訴える街
- 被爆者の涙と証言
- 緑豊かな美しい街

『ねがい』

徳永 絢音

私は、広島に行って、72年前に広島でおきたことを勉強してきました。

一日目は、げんばくドーム、ばくしんち、平和きねんしりょうかんへ行きました。その後、ひばくしゃの山根さんからお話を聞きました。

私がおそれていたことは、げんしばくだんがばくはつした後の写真や動画を見ることです。みんなのみらいやきぼうが、たった一個のげんしばくだんによってうばわれてしまった。そのことがくるしくてしかたがないからです。どんなにあつくて、いたかっただろう、どんなにくやしくて、悲しかったことだろう。

何よりもいんしょうにのこったことは、山根さんの話です。お兄さんがなくなられたそうです。「家ぞくをたいせつにしてね」と心のそこから話してくれました。友達や家ぞくをたいせつにすることが平和へのだい一步だとおそわりました。

二日目は、平和きねんしきてんにさんれつしました。お花をおそなえしたあと、本川小学校の平和しりょうかんへ行きました。

しきてんでは、72年前のげんしばくだんでくるしんだ人たちの気もちを思いながらもくとうをしました。

広島市長さんの話がとても心にひびきました。私たちは昔にどんなことがあ

ったのかを忘れてはいけないとおもいます。

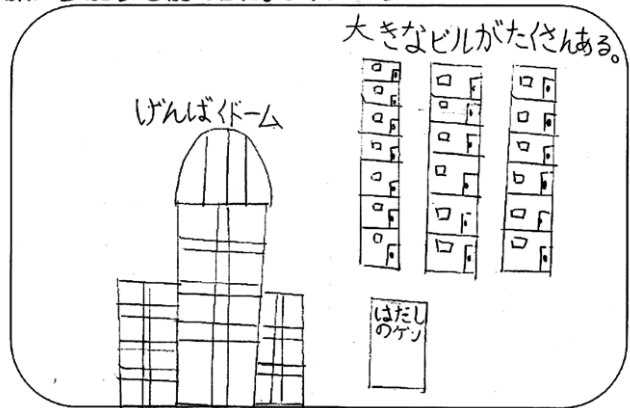
広島に行って心がいたかったけれど、広島のみちは、昔にげんしばくだんが落とされたなんて、とても思えないほど、緑の木々でいっぱいの明るいまちでした。

「西東京市平和の旅」にさんかして、平和ってどんなことなのか、いっぱい考えました。

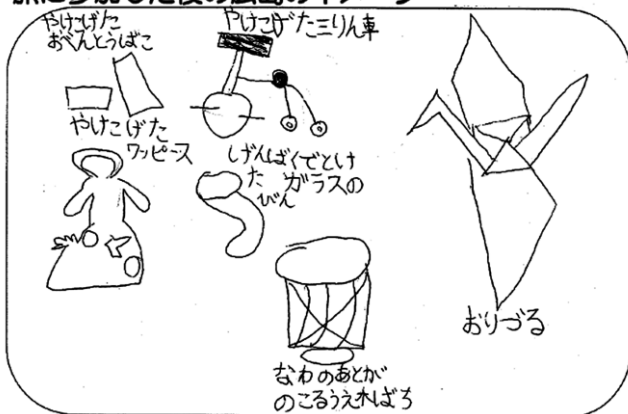
どうしたら世界が平和になれるのか考えないといけないと思いました。ぶきをつかわずに、話し合うこと、みんながえがおでいるためにはどうしたらいいのか考えないといけない。戦争はぜったいにしないとちかいます。それがみんなのねがいのはずです。



旅に参加する前の広島のイメージ



旅に参加した後の広島のイメージ



『未来へつなぐ』

徳永 恵美子

いつか自分が母親になったら、できるだけ早い時期に子供を広島へ連れていきたいと思っていました。

中学の時に広島へ行き、言葉で言い表せないほどの強い衝撃を受けたからです。

事前にどんなに戦争や原子爆弾、被爆者の体験を理解するよう努力しても、実際に目にした原爆ドーム、資料館、被爆者のお話から心で感じるものには到底かなわない。一度訪れたら、心に強く届くと感じていたからです。

できるだけ子供が小さなときに、過去に起きたことを正しく知り、過去から学ぶ、未来に活かす教育が必要だと感じていました。

そんな時に「広島平和の旅」を知りました。

広島を再訪するのに約 30 年もの時間がかかってしまいましたが、広島の間は緑豊かな美しい街としてさらに力強く前進していると感じました。

平和記念式典に参列できたこと、被爆者の山根さんからお話を伺えたことは、これからの自分に活かされると感じています。山根さんが私たちに話して下さった体験は、思い出したくもない体験です。話して下さるのは、ただ一つ、「戦争のない平和な未来を」と願う気持ちが山根さんを突き動かしているのだと思います。

この旅を終えてから、娘が、

「私はおなか一杯、ご飯が食べられる」

「平和な時代に生まれてこられてよかった」

などと言います。小さいからこそその感性で、心に響いたことがたくさんあったのだと信じています。

今回、たくさんの方のお力をお借りして、多くのことを親子で学ばせていただきました。私自身、戦争を知らない世代ですが、次の世代につなげていかなくてはいけないと改めて感じました。

「いのちのありがたみを感じながら、毎日を丁寧に生きよう」と考えさせてくれた貴重な旅でした。

旅に参加する前の広島イメージ

- ・原爆ドーム
- ・はだしのゲン
- ・路面電車
- ・平和への祈り
- ・千羽鶴
- ・平和記念式典
- ・「広島焼き」と「もみじまんじゅう」
- ・かき
- ・厳島神社



旅に参加した後の広島イメージ

- ・緑豊かな美しい街
- ・平和の祈りに包まれた街
- ・みごとな復興を遂げた力強い街

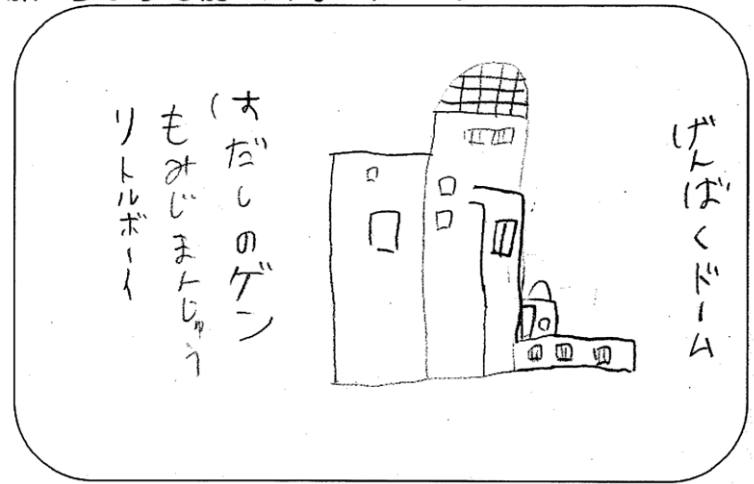
『原爆』

大橋 魁

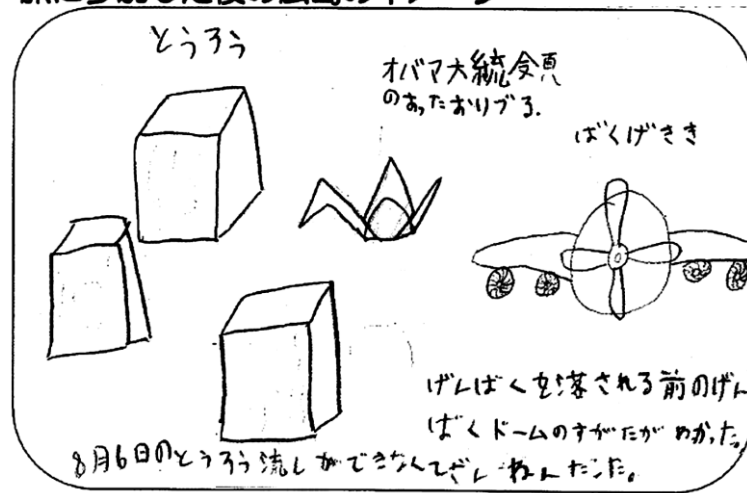
僕は広島に行って、さいしょに原爆ドームを見ました。爆心地から近いのに、のこっていてすごいと思いました。資料館は色々な物がてんじされていましたが、特にひばくした人の写真を見てひどいと思ったし、こわかったです。それに爆心地から近い所だと人や物のかけだけがのこることがあるなんて初めて知っておどろきました。こんなひどいことがおきるのだから、戦争なんてやめたほうがいいです。

でも町のほとんどがぼろぼろになっても立て直そうとしたことは、すごいです。広島の人たちは、大へんだったと思います。戦争をなくすためには、一人一人が平和を考えて気をつけなければなりません。僕はこれからも原爆や戦争のことを学んでいきたいです。

旅に参加する前の広島イメージ



旅に参加した後の広島イメージ



『ヒロシマ』

大橋 慎

広島は暑かったです。でもあの日の広島は影だけ残して人が消える程の高熱と爆風、まさに地獄だったと思います。生き残った人々は願わずしてなった被ばく者としての人生を不本意ながら歩まなければならないという辛さ…お話を伺った山根さんは結婚を意識した時、子どもができたとき、子どもの成長の折々で常に自分が被ばく者だからという意識に苛まされたと涙を流し、しかし家族、友人の支えがあって自分は生きることができたと感謝の涙を浮かべて語りました。また「二度と戦争はしません」と言える人になってくださいとお願いされました。本人からの肉声の力は心に響きました。

百聞は一見にしかずという言葉があります。予想より小さかった原爆ドーム、広い平和記念公園中に人が集まった平和記念式典、今でも生々しい跡を残している本川小学校平和資料館、世界の著名人のメッセージを食い入るように見た平和記念資料館。式典で子ども代表が誓っていた「未来を考えるスタートの場所、広島」は、一方で広島東洋カープを愛し、川と緑の多い美しく活気ある町でした。

最後にこの企画に選んで頂いた西東京市と行ってこいと自分と息子の背を押してくれた妻に感謝します。来年も誰かがこの体験ができますように。

旅に参加する前の広島イメージ

原子爆弾 平和記念公園 8.6 原爆ドーム

黒い雨 リトルポニー 佐々木禎子 折り鶴

はだしのゲン ピカドン 父と暮らせば 赤ヘル

路面電車 マツダ お好み焼き サンプルチェ

綾瀬はるか 呉 江田島 宮島 厳島神社 紅葉まんじゅう

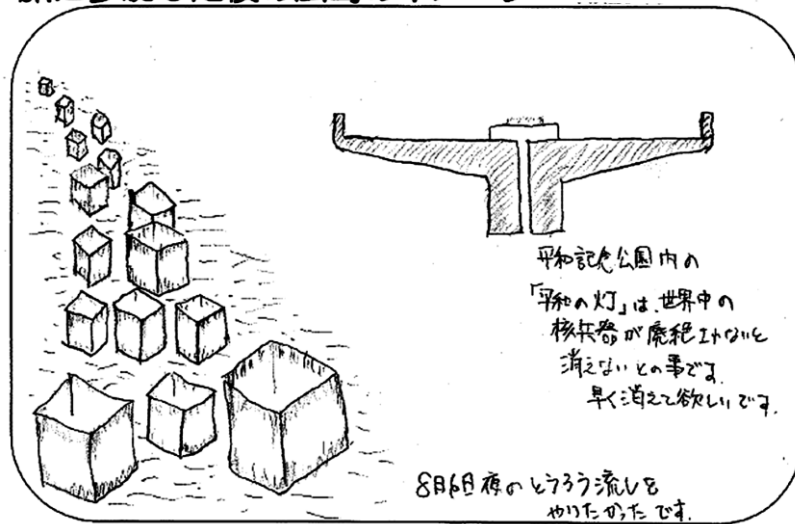
仁義なき戦い 毛利元就 村上水軍 perfume

尾道 大林宣彦 転校生 時をかける少女 さびしんぼう

鞆の浦 崖の上のポニョ しまなみ街道 この世界の片隅に



旅に参加した後の広島イメージ



『グローバルな目標を達成するためには グローバルな努力が必要』

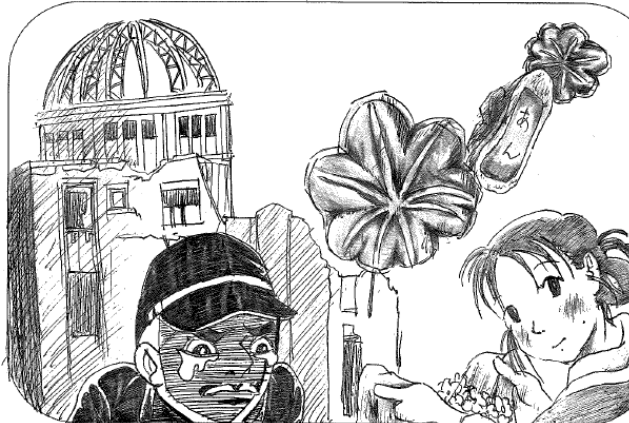
清水 信博

タイトルは、平和式典に寄せられた国連事務総長からのメッセージの言葉だ。心に残った。今回の広島平和の旅は、正にこのグローバルな努力だったと思う。できて本当に良かったし、感謝している。また、小学6年生の男女が、式典で訴えていたことも、よく伝わった。それは、これから、旅を終えた私たちがすべきことを方向付けてくれている。つまり、「世界の人達へまっすぐに伝えることばで、辛抱強く訴え続けていく」ということだ。記念公園の炎は53年間、プロパンの力と、人々の真心で燃え続け、世界中の為政者が核兵器の使用を永遠に断念することを待っている。オバマ大統領の訪問は、その後、世界中の人々が広島へ訪れる流れを大きく前進させたと言う。実際、南アフリカの大使が熱心に資料館を見学し、質問し、意見を交わしている姿を見た。これは、目の前で「平和を創るグローバルな努力」が生み出されている瞬間だと感じた。

三人の子ども達は抜群の吸収力と鋭敏な感性で一つ一つのことからを学び取っていた。資料館の地下には、平和記念公園の地下50cmに埋め立てられた戦争遺跡たる焦土の一部が切り取られて展示してあったが、子ども達はそこに飛びついてた。私は、こういうものもあるのかくらいの初見だったが、後に被爆者による講話で、その重要性が明らかにされた。二度目の資料館での見学で

は、私には、初見と全く違った印象で観察されたが、子ども達は、きっと最初から、より深く鋭く、その資料の本質的重要性を感じ取っていたことだろう。旅の全般に渡り、そういうことがあった。保護者は、よく子ども達を守り、質問し、学習を促し支えていた。同行の市職員も連日 35° を超える中よくよく配慮して旅を楽しく安全に遂行して下さいました。皆さんありがとうございます。最後に、SDGs で世界や日本を貫く問題が明らかになった今、広島を体験学習することは、日本人の「世界市民の要件」だと感じた。故に、都内からも修学旅行先として「京都・奈良」以上に広島を推薦したい。

旅に参加する前の広島のイメージ



旅に参加した後の広島のイメージ



『印象的だったこと』

長谷川 淳子

とくに心に残ったのは広島平和記念資料館での見学と被爆体験者の山根和子さんによる講話です。資料館では「3人の中学生の遺品」に心、動かされました。被爆のあとが生々しい帽子、ベルト、学生服、ゲートルを身につけた展示物のすぐ横にそれぞれの持ち主である3人の笑顔写真が並べてある。写真と展示物を何度も見ながら、戦争中にしても家族や友人と何の疑いもなく生きていくことを信じ、志半ばで一瞬にして未来を閉ざされ苦しんで息絶えたかと思うと胸が一杯でした。

山根和子さんの講話では、結婚、出産、お孫様の誕生を通して、被爆者であるがゆえの苦悩は計り知れず、同性としても身にしみて伝わってきました。被爆者であることへの誹謗、中傷を受けて目に見えない傷も負う人々がいること、家族と仲よくして二度と戦争はしないと言う人になって欲しい願いを聞いて、私も平和への願いを強く思いました。

翌日、平和記念公園に踏み入れた時は、「ああこの50cm下が地獄だったのだ」と思いかみしめながら歩きました。こうした見学後の平和記念式典では、「広島は暑い！」汗だくになりながら、平和への強い思いで参加することができました。

この機会を与えて頂いて、心から感謝致します。ありがとうございました。



旅に参加する前の広島イメージ

- 小学生の時にみた原爆の写真集から
- 原爆によって人々の苦しみ悲しみのある暗い町
- ケロイド
- 原爆ドーム
- 黒い雨
- 広島名産のカキ

旅に参加した後の広島イメージ

- 建物が近代化され、発展した都市
- 町中を大川が流れ、清々しく、緑が多い
- 平和資料館、本川小学校平和資料館等に被爆後の物品を大切に保存して平和を訴え、祈っている。

非核・平和都市宣言

私たちは生きている。

おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち
様々な考え方と、異なる環境の下で生活している
この地球で

私たちは持っている。

この地球上で、健康で幸せな生活をする権利を
異なる考え方の人々を差別しない義務を

私たちは知っている。

おおくの人々が、今なお戦争で傷つき命を失っていることを
住みなれた平和な生活の場を追われて飢えていることを

私たちは訴える。

必要なのは笑顔での話し合いであることを
必要なのは人類愛と思いやりであることを

私たちは宣言する。

あらゆる人を傷つける地雷や武器をなくすことを
あらゆるものの破滅を招く核兵器をなくすことを
地球上から戦争をなくすことを

私たち市民のこの声と願いを

世界に広く訴えるために

非核・平和都市 西東京市の

宣言とする。

平成14年1月21日

西 東 京 市